

事業名	離島漁業再生支援交付金事業
-----	---------------

総事業費	24,345 千円
------	-----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	水産業の振興
	基本事業名	漁場環境整備

② 実施 (Do)

事業の意図	漁業所得を確保する。	
事業の実績 と成果	取組内容	<p>漁場の生産力向上に関する取組として、ナガラメ稚貝放流活動・藻場の造成・ウニ駆除・漁場監視・イカ柴投入を実施した。</p> <p>漁業の再生に関する実践的な取組として捌き方教室・加工品加工販売・魚かご試験操業を実施した。</p> <p>漁業の再生に関する話合いで各漁業集落の取組や漁業の現状について協議が行われた。</p>
	成果	<p>漁場の生産力向上に関する取組の実施により、漁場環境の改善について、創意工夫を生かした取組を実施できた。</p> <p>漁業の再生に関する実践的な取組の実施により、地元水産物の魚食普及の推進を図った。</p>

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	<p>各漁業集落内で取組に参加する構成員が減少してきている。</p> <p>サメ駆除の危険性から重要であるが、取組を実施できなかった漁業集落がある。</p> <p>魚食普及について、原材料の確保が難しい。</p>
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	<p>本事業は、販売・生産面で不利な状況にある離島地域において、離島漁業再生支援交付金を活用し、漁業集落において共同で漁業再生に取り組む事業を行うものである。令和6年度においては、前年同様に漁場の生産力の向上に係る継続的な取り組みとして、ナガラメ稚貝放流・藻場再生、管理・漁場監視・イカ産卵礁、イカ柴の投入、サメ駆除などを実施した。藻場再生については、久保田・上古田漁港において、鹿児島大学と連携し栄養分添加による実証を行った。一定効果が確認されていることから引き続き、継続的な取り組みを行っていく。また、漁業の再生に関する実践的な取組においては、保育園や小学校、高校おける魚の捌き方教室のほか、年の瀬市などの加工品加工販売などを実施した。</p> <p>第4期計画は、令和6年度まで計画期間であった。令和7年度より、次期第5期の計画を実施予定である。</p>

④ 改善 (Action)

2025年度 方向性	<p>離島漁業再生支援交付金は第5期を迎えた。</p> <p>取組参加者の減少している状況を踏まえ、各漁業集落で必要な取組等について協議し、事業の再構築を図る。</p>
------------	--

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明
	<p>トコブシ稚貝放流の様子 トコブシ稚貝88,000個放流 (住吉：20,000個、西之表：23,000個、国上：5,000個、東海40,000個) トコブシ稚貝を放流・管理することにより、トコブシ資源の維持・増大を図った。</p>

事業名	水産多面的機能発揮対策事業
-----	---------------

総事業費	738 千円
------	--------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	水産業の振興
	基本事業名	漁場環境整備

② 実施 (Do)

事業の意図	資源状況の悪化、魚価の低迷、漁業事業者の高齢化等により水産業においては厳しい状況にある中、資源管理の試験的な取組みを行い、漁業者の取組の指針を構築する。	
事業の実績 と成果	取組内容	<ul style="list-style-type: none">・ 専門機関への研究委託による藻場の栄養添加試験の実施及び魚カゴ試験操業の実施。・ トコブシ陸上養殖の試験飼育。・ 長崎県五島市へ先進地視察。・ 流れ藻により住吉漁港の入出港が困難であったため、藻の撤去作業に対して支援を実施。
	成果	<ul style="list-style-type: none">・ 栄養添加による藻の生長については確認できた。また、魚カゴ試験で有用な魚種の漁獲が確認できた。・ 通年通してトコブシの試験飼育を実施できた。・ 先進地視察を行い、水産物の流通やブルーカーボンに対する取組について研修することができた。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	<ul style="list-style-type: none">・ 栄養添加だけによる藻場の造成は難しい。その他の方法と掛け合わせ藻場の創出を行う必要がある。・ 試験養殖は生残率が非常にわるい。飼育環境を見直し、生残率の向上を図る。・ 先進地視察で研修した内容を水産振興計画に落とし込む。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	<p>鹿児島大学水産学部等と連携し令和3年度より藻場の再生について、実証研修を行っている。令和6年度は、久保田漁港の東側の3地点において、秋に幼胚を形成する沖縄産ホンダワラ類の母藻を12月に養殖カゴに入れて中層に設置するとともに、東側の堤防において、12月～2月にかけて肥料1000kg/月を海水で溶かさずに直接投入した。しかしながら、母藻及び幼体ともに2月に枯死した。母藻については、冬場の水温が低温であったこと、幼体については植食性魚類に摂食された結果と推察された。藻場の再生は、漁業環境において大きな課題であり、引き続き、継続的な取組を行い、実証を重ねていく必要がある。トコブシ稚貝の飼育試験については、令和5年度から継続的に実施しており、飼育環境等を比較しながら、成長との関係を検証していきたい。</p> <p>また、令和6年度は、本事業を活用し、住吉小組合が住吉漁港内の流れ藻を撤去したことで、漁港を効率的に活用することができるようになった。</p>

④ 改善 (Action)

2025年度 方向性	2024年度の取組内容を踏まえ、より具体的に水産振興に向けた取組を実施する。
------------	--

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明
	<p>トコブシ陸上養殖試験 トコブシの陸上養殖の試験を実施。 右：令和5年11月～ 左：令和7年2月～</p>

事業名	漁業環境整備事業
-----	----------

総事業費	1,596 千円
------	----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	水産業の振興
	基本事業名	漁場環境整備

② 実施 (Do)

事業の意図	共同利用施設の軽微な修繕及び更新費用等を支援することにより、漁業の経営安定をと水産物の安定供給を図る。	
事業の実績 と成果	取組内容	共同利用施設の整備 ・ 種子島漁協の誘導灯の更新 ・ 西之表市船主会のブルースリング及び吊り天秤の導入 ・ 住吉小組合の防犯カメラの導入 ・ 湊小組合の漁港施設（トイレ）の更新 ・ 中目小組合の係留環の増設
	成果	老朽化の激しい漁港港湾の共同利用施設の整備を行うことにより、安全対策や港の利便性向上を図れた。 また、船舶引揚げ用の機器の導入により、利用性の向上を図れた。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	漁港港湾の利用状況を踏まえ、費用対効果について検討。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	令和6年度は、要望に基づき計画を上回る5件の取組みを支援し、施設の機能維持に努めた。共同施設が老朽化する中で、小組合からの要望を踏まえ、施設を維持させていく必要がある。一方で、今後新たな水産振興計画を策定する中で、今後の小組合のあり方、施設の維持について将来を見据えた検討も必要である。

④ 改善 (Action)

2025年度 方向性	漁港港湾において、共同で利用する施設等を支援する。
------------	---------------------------

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明
 	<p>【写真左】 西之表市船主会 ブルースリング及び吊り天秤</p> <p>【写真右】 種子島漁協 誘導灯（安納港）</p>

事業名	西之表市水産業振興計画策定事業【再編交付金事業】
-----	--------------------------

総事業費	16,134 千円
------	-----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	水産業の振興
	基本事業名	漁場環境整備

② 実施 (Do)

事業の意図	本市水産業の現状と課題を踏まえて、今後10年間を見据えた本市水産業のあるべき姿を描き、その実現に向けた計画を策定	
事業の実績 と成果	取組内容	本計画は、2ヶ年で策定することを予定しており、その1年目として、計画策定で必要となる基礎的な情報の収集と分析や関係者の意向の把握、協議会の運営支援等を行い、その結果に基づいて計画の骨子作成までを行った。
	成果	過去にない計画策定業務であったが、漁業関係者及び関係機関並びにコンサルタントと連携し協議を重ね計画の骨子を作成し、次年度策定に向けての基盤づくりが出来た。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	本事業は、令和6年度から2か年かけて策定することとしており、本来であれば債務負担行為を設定し、2年で業務発注を行うべきであるが、国庫補助金の関係上、単年度契約を行う必要があったことから、令和6年度（調査・骨子作成）、令和7年度（計画策定）と年度ごとに業務発注することとした。今年度の本業務を受託し、漁業関係者へのアンケートやヒアリング等を実施し調査資料の蓄積やノウハウ、業務への習熟があるコンサルタントと引き続き契約できればと考える。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	本事業は、本市水産業の現状と課題を踏まえて、今後10年間を見据えた本市水産業のあるべき姿を描き、その実現に向けた計画を令和6年度から7年度の2か年をかけて策定するものである。令和6年度においては、現状等を把握するため、漁業者に対するアンケートや聞き取り、また関係機関等による協議の場において、将来に向けた方向性を議論し、大枠の施策について骨子をまとめた。 次年度においては、施策に基づきさらに具体的な取組を検討し、まとめていきたい。

④ 改善 (Action)

2025年度 方向性	計画の完成。
------------	--------

事業名	県営漁場整備事業
-----	----------

総事業費	3,000 千円
------	----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	水産業の振興
	基本事業名	漁場環境整備

② 実施 (Do)

事業の意図	日帰り可能な海域に人工漁礁設置による漁場の整備を行い、資源の維持・増大を図ると共に、操業の効率化を図る。	
事業の実績 と成果	取組内容	住吉周辺海域へのイカ集漁用人工漁礁の投入。 住吉周辺海域へのイセエビ増殖礁の投入。 西之表周辺海域へのイカ産卵床の投入。
	成果	産卵床及び増殖礁を設置することにより、水産資源の増加を図った。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	県営事業であり、事業の進捗状況を詳しく把握できていない。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	令和6年度県営事業により、計画に基づき住吉周辺海域へのイカ集漁用人工漁礁、住吉周辺海域へのイセエビ増殖礁、西之表周辺海域へのイカ産卵床の投入を行った。近海に漁礁等を設置することで、水産資源の増加が期待される。

④ 改善 (Action)

2025年度 方向性	事業実施なし。
------------	---------

事業名	漁港維持補修事業
-----	----------

総事業費	34,879 千円
------	-----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	水産業の振興
	基本事業名	漁場環境整備

② 実施 (Do)

事業の意図	適切な漁港施設を維持することで、安心・安全に施設を利用できる。	
事業の実績 と成果	取組内容	漁港・海岸施設等の不具合箇所の調査・立会を行い補修を行った。
	成果	適切な漁港施設を維持することで、安心・安全に施設を利用できるようになる。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	各漁港の施設の老朽化が進行しており、補修や改良整備が必要になってきている。また、利用者からの要望も増加している。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	予防型の補修を実施することで、災害の防止及び施設の延命化が図られ、結果的に維持経費の削減が見込まれる。また、漁港施設の機能確保が図られることから、水産振興に寄与するものである。今後も長期的な視点をもって計画的に実施していくことが重要である。

④ 改善 (Action)

2025年度 方向性	漁港施設の不具合箇所の調査を行い、機能回復を目的として補修工事を行う。
------------	-------------------------------------

【参考資料】

着工前	完成後
	